

平成31年度

公益財団法人名古屋みなと振興財団
事業計画書

平成31年度公益財団法人名古屋みなと振興財団事業計画

平成31年度は、名古屋港水族館については、本財団が名古屋港管理組合から3期目の指定管理者として運営を行う6年目である。また、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設については、4期目の指定管理者として運営を行う2年目となる。このような状況を踏まえ、これまで以上に、施設の公平・公正な使用及び管理運営の効率化を推進し、より柔軟で、きめ細かなサービスの向上を目指し、名古屋港における海事思想の高揚と海洋文化の普及に努め、併せて観光事業の振興を図るとともに、名古屋港の発展により一層寄与することができるよう、次の各事業を行う。

1 公益目的事業

(1) 海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 指定管理施設（名古屋港水族館）を活用した海洋生物の展示等

海洋生物の展示を通して海洋文化にふれあう場を提供する。

展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境の管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者等による解説活動やモニターやタブレット端末、ライブカメラを用いた動画での生態・行動等の解説を積極的に行い、来館者への海洋文化普及を促す。

特にシャチに関しては、平成29年度からメインプールで「シャチの公開トレーニング」を実施しているが、生物の状況によりメインプールに出せないこともあり、メインプールでの実施割合をより多くするために、シャチの健康維持により心掛けるとともにトレーナーのスキルアップを図る。

また、平成29年度しおかぜ広場に設置した「ごまちゃんデッキ」では、ゴマフアザラシやケーブペンギンをより身近な場所で展示を行い、ふれあいイベントなどを実施する。同時に、繁殖にも力を入れ絶滅の恐れのある野生動物に対する興味を喚起するような展示を行う。

南館では、平成30年度末に行った南極ホールの展示改修により新たな魅力作りに努める。

また、改修工事の終わった「ウミガメ回遊水槽」では、体験型の給餌解説を検討する。

② 体験プログラムを通じた海洋文化の普及

小中学生を対象とした水族館内でのスクール、広く一般を対象とした体験イベント、講演会など、主に水生生物に関する知識を深めるための体験プログラムを実施する。

「君もドリトル先生になれるか!」、「ナイトウォッチング」、「お泊り水族館」、「もっと知りたいダーウィン教室」をこれまでの参加者からの意見を参考にし、実施時期や内容を再検討しながら実施する。

- ③ 指定管理施設（名古屋海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等
これらの施設において所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想普及を促す。

名古屋港ポートビル2階回廊ギャラリーにおいては、無料で利用できる市民ギャラリーとして、海に関する作品や、海に関わる人々の作品を展示する。

- ④ 体験プログラムを通じた海事思想の普及

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるための体験型のプログラムを実施する。具体的には「星空観察会」、「南極教室」、「工作教室（ペーパークラフト、3D立体カード製作）」、「ボトルシップの製作講座」等、様々な年齢層に興味を持ってもらえるような企画、イベントを開催する。

また、伊勢湾台風60周年にちなんだ企画展「古地図から学ぶ尾張の歴史 ～名古屋港から防災を考える～」を開催する。収蔵品の古地図や歴史資料展示を通じて防災のことを考える展示を夏休みに行き、その付帯事業として16mmフィルムアニメ「伊勢湾台風物語」の上映会を9月下旬に行う。

- ⑤ 機関紙等による情報提供

機関紙等を発行し、タイムリーに野生動物や水族館に関する情報を提供する。作成した製作物は、館内配布により来館者に提供し、関係諸機関及び購読希望者には必要に応じ送付する。

名古屋港水族館機関誌「ニュースレターさかなかな」、生物情報紙「新着!海の生き物レター」を作成し、配布する。「ニュースレターさかなかな」は定期購読以外の配布は行っていなかったが、名古屋港水族館のホームページにも掲載し、名古屋港水族館の生物や活動について一般に広く周知する。学習教材「かんさつノート」を発行、配布するとともにダウンロード版のワークシートも合わせた運用で幅広い活用を促す。

- ⑥ 学生の職場訪問及び教員研修等の受け入れ

教員を対象とした教員研修や中学生を対象とした職場訪問・職場体験などを受け入れ、名古屋港水族館及び名古屋海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体へのレクチャーを実施することにより、一般市民へ海洋文化及び海事思想の普及を図る。

本財団職員が執筆した名古屋港水族館のウミガメに関する教材が教科書「ひろがる言葉、小学国語 ４下」（教育出版）に掲載され、平成２８年度から名古屋市立の小学校で採択されたことを受け、夏休みを利用した教員の事前学習や、閑散期における生徒へのレクチャーを積極的に誘致する。

⑦ ボランティアの育成、活用

名古屋港水族館において、展示生物の解説、スクールなどの補助といった教育普及業務を行う解説ボランティア制度を導入している。この制度は、ボランティアへ行う研修や彼らが行う解説活動などを通して彼らの自己啓発や自己実現という生涯教育の場を提供するとともに、習得した知識・解説スキルを用いて来館者へ興味・感動を呼び起こすことを目的としている。平成３１年度も多くのボランティア（約２００名）を活用し、南館「南極の海」、「サンゴクロズアップ」や北館「進化の海」での解説活動を強化するとともに、改修工事を行った「ウミガメ回遊水槽」での解説活動を再開し、ボランティア及び来館者へ海洋文化の普及を促す。

また、名古屋海洋博物館・南極観測船ふじにおいては、展示解説などの教育普及業務、及び南極観測船ふじの塗装等の修繕を行うボランティア制度を導入しており、これらを通してボランティア及び来館者への海事思想の普及を促す。

⑧ 海洋生物等の調査研究

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施する。

特に鯨類に関しては、平成２９年１０月から開始した三重大学とのシャチの繁殖に関する研究を軸として、繁殖による展示生物の安定的な確保に向けて技術開発を継続して進める。

また、名古屋港内に冬季に来遊し、水産資源保護法で管理されている小型鯨類スナメリの生息数調査を研究機関と共同で取り組む。平成２９年度まで実施した調査を元に平成３０年度後半から港内全域での本格的な調査を開始し、平成３１年度も継続して調査を実施し、生物学的な基礎研究を進め、その研究成果の紹介に努める。調査費用に関しては外部

の研究助成金に積極的に応募する。

(2) ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等からなる名古屋港観光施設協議会を通じて、相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進PR、誘致営業・宣伝事業等を行う。

観光キャンペーンの一環として、観光展「ゴーゴー名古屋港！」を実施するほか、県内外の幼稚園始め学校関係及び国内旅行やインバウンドを取り扱う旅行代理店等を訪問し、誘致営業、PR事業を行う。

② 情報誌の発行

名古屋港の観光施設の情報を掲載した無料情報誌「名古屋港水族館とガーデンふ頭のにぎやか情報誌」を発行し、県内外の各所に配布することにより、名古屋港の観光情報を発信し、来港者の増加を図る。

また、この他にも「名古屋港ガイドマップ G o G o 名古屋港」等を発行し、配布する。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関連機関が主催するイベントや観光推進事業等に参加し、協働して観光振興とPRに努めるとともに、観光関連機関や観光施設等との連携及び情報の共有化を図る。

また、名古屋市交通局と連携し、市営交通機関利用者に対し、本財団の施設入場料の割引を行うことにより、来港者の増加を図り、この地域の活性化を図る。

④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）を活用したイベントの開催

ガーデンふ頭地区においてイベントの実施、誘致を通じ、港に賑わいを創出し親しまれる港づくりを推進する。

「名古屋港開港祭フレンドリーポート」、「ガーデンふ頭新春イベント」等を実施する。

また、「港区区民まつり」、「名古屋市消防出初式」、「築港祭」等のイベントを積極的に受け入れる。

2 公益目的事業以外の事業

(1) 管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機を運営することにより、公益

目的事業の一助とする。また、「名古屋港水族館の営業時間外利用」や「法人サポーター制度」拡充することにより、公益目的事業を補完する。

(2) 船員宿泊施設の運営事業

船員宿泊施設である名古屋船員会館（ハーバーロッジなごや）を運営することにより、船員はもとより来港者の宿泊を促し、観光事業振興の一助とする。